

schedule

6日(金)	10:00	① 美術の広場 「MM Grass Park 2023」 (みなとみらい21地区着工40周年記念事業)	
7日(土)			
8日(日)	10:00		
9日(月)			
10日(火)	20:00		
11日(水)		MM Grass Park 2023の詳細はこちら→	
12日(木)			
14日(土)	10:00	② 旧第一銀行横浜支店 「関内外OPEN!15」	
15日(日)	11:30		
	17:00	関内外OPEN!15の詳細はこちら→	
10月			
20日(金)	11:00	③ キング軸・横濱ゲートタワー +みなとみらい本町小学校	
21日(土)	21:00		
	11:00	※10月20日パブリック・アートテーブルトークショー、10月21日アートテーブル&パブリックアートまち歩きを開催	
	16:00	詳細は下記event+こちら→	
27日(金)		③ キング軸・資生堂 S/PARK + 京急グループ本社+横浜グランゲート	
28日(土)	11:00		
	16:00	※10月28日 S/PARK Café テラス(屋外)では「みなとみらい Street Music」が開催予定、詳細はこちら→	
4日(土)	10:00	④ 横浜港山内ふ頭中央卸売市場横 「さかな文化祭」	
	16:00		
		さかな文化祭2023の詳細はこちら→	
11月			
12日(日)	10:00	⑤ キング軸・高島中央公園 「みなとみらい Park Day」	
	15:00		
		※みなとみらい Park Day2023は高島中央公園で開催されます。10時～15時(雨天中止)	
		詳細はこちら→	



map

Public Art Table 2023

あちこち、キャラバンのように点々とする予定です!

パブリック・アートテーブル
2023

- アトリエ・ワン
- +東京工業大学塚本研究室
- SPACE SPACE
- 野老朝雄
- 西原尚
- 下寺孝典 (TAIYA)
- ワークステーション
- +武蔵野美術大学建築学科高橋スタジオ
- 甲斐貴大 / studio arche
- 矢内原充志 + 佐藤邦彦
- 磯崎道佳
- 多田正治アトリエ

event

<p>「パブリック・アートテーブル トークショー」</p> <p>2023年10月20日 [金] 19:30~21:00</p> <p>会場 横濱ゲートタワー1階(店舗スペース) 定員50名 / 要予約(無料)</p> <p>キング軸を中心に展開する「パブリック・アートテーブル」に参加する2名のアーティストが、制作に関わる話をします。(トーク終了後交流会があります)</p> <p>登壇者 塚本由晴「ふるまいとコモンズ、制度とパブリック」 つかもと よしはる 建築家、アトリエ・ワン共同主宰、東京工業大学環境・社会理工学院建築学系教授</p> <p>下寺孝典「アジア各国の屋台のかたち」 しもでら たかのり 屋台研究家、TAIYA 代表</p> <p>主催: 横濱ゲートタワー管理組合</p>	<p>アートテーブル&横濱ゲートタワー・パブリックアートをめぐるツアー</p> <p>2023年10月21日 [土] 13:30~15:30頃</p> <p>会場 ART START (横濱ゲートタワー内) 集合出発 定員50名 / 要予約(無料)</p> <p>横濱ゲートタワー内のパブリックアートと、パブリック・アートテーブル(10作品)を巡るツアーを開催します。実際のアートテーブルを前に、制作したアーティストが解説を行います。</p> <p>主催: 横濱ゲートタワー管理組合 + BankART1929</p>
	<p>申込(2つのイベントとも)</p> <p>https://peatix.com/event/3700812</p> <p>締切: 10月18日 [水] 17時 (満員になり次第締切)</p>

主催: BankART1929 共催: 横浜市にぎわいスポーツ文化局
 協力(順不同): 三菱地所(株)、関内外OPEN!15、横濱ゲートタワー管理組合、みなとみらい本町小学校、京浜急行電鉄(株)、資生堂グローバルイノベーションセンター(S/PARK)、横浜グランゲート防災センター、一般社団法人 スマートニッチ応援団、高島中央公園愛護会、一般社団法人 横浜みなとみらい21
 ※この事業は、公益信託みなとみらい21まちづくりトラスト採択事業です。

お問合せ (BankART1929)
 Tel: 045-663-2812
 E-mail: info@bankart1929.com

10月6日(金) → 11月12日(日)

みなとみらい21(キング軸、美術の広場)

関内地区(旧第一銀行横浜支店)ほか

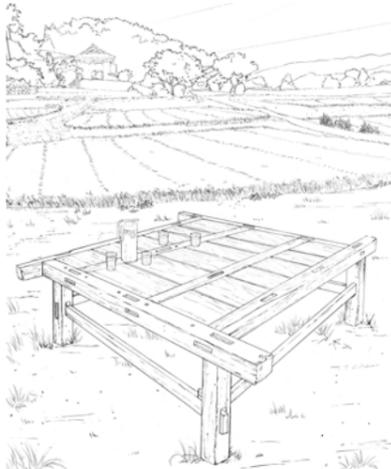
BankART 1929

BankART1929は、昨年(2022年)度、みなとみらい21のキング軸周辺の多くの企業や住民、学校や店舗の協力を得て、キング軸・アートテーブルを展開しました。みなとみらい21の中でも現在進行形の開発地区であるキング軸という歩行者空間で、ちょっと変わったアートテーブルを配するというシンプルな行為から、多様な人々との交流が始まり、新しい人間関係が確実に生まれ始めました。

今年(2023年)度は、みなとみらい21のキング軸だけでなく、グランモールでの展開や、周辺の関内地区や、山内ふ頭にも出張します。

横浜の都心部には、民間の建物の敷地の中にある公開空地といわれる歩行者空間や広場、公共の公園や道路、鉄道の駅構内など、誰でも立ち入れて憩うことができる空間が多数存在します。このような空間の価値を再認識し、都市の中に「パブリック・アートテーブル」という装置を挿入することによって、人と人々を繋げる場として、楽しみ、豊かさを感じ、更にはこのテーブルを起点に文化や経済などの新しい都市活動が生み出されることを期待しています。

「里山再生床机」 アトリエ・ワン + 東京工業大学塚本研究室



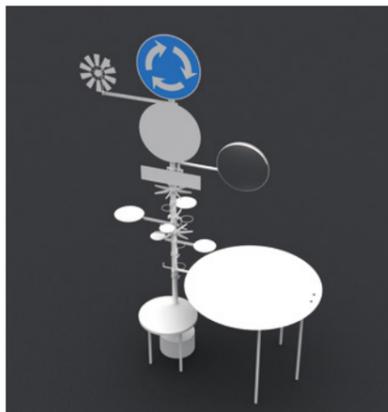
鴨川市釜沼北の棚田集落で解体された古屋を縮約して、床でもテーブルでもある床机に再構成した。

サルベージした柱のほぞやほぞ穴を利用し、楔や木柱で材同士を固定しているので誰でも組み立て、分解ができる。新品の工業製品を使って専門家だけで作られたみなとみらいとは対照的な事物連関が、東京湾を渡ってやって来た。

アトリエ・ワン | 1992年塚本由暁、貝島桃代により活動開始、2015年より玉井洋一がパートナーに加わる。建築、公共空間の設計、美術展・建築展への参加及びキュレーション、執筆、教育など。

東京工業大学環境社会理工学院建築学系塚本由暁研究室 | 修士1年 遠山美幸、越智将人、須藤寛天、小田拓生、鈴木ひかり、小林日向子、徐 徳天、Abir Ezzedine

「標識の『ようなもの』」 SPACESPACE



街は建築だけでなく、それ以外の多くの要素から出来ています。広告、看板、商品が置かれたワゴンや自販機のような商業的なものから、ポスト、バス停、信号、標識のような生活を支えるものまで様々です。街を歩く視点では、むしろこれら街の要素が建築より前景化します。

ここでは、1つの役割のみを与えられた標識に様々な機能を付加する、枝のような家具群を設計しました。複数の機能を加えられ変形された標識「のようなもの」は、新しい使い方を誘発し、街をより豊かにします。

SPACESPACE | 大阪の中津商店街で活動を展開する建築設計事務所。2006年に香川貴範が設立。2010年岸上純子参加。近年は、生活や街の活動を形作る部材によるリノベーションの新しい方法論を提唱。主な作品に、ロングトールハウス、グリーンヒル、地面と屋根上の家、磯山調剤薬局、新・港村 ブックショップ、Dアパルトメント、庭の形、上島町の介護付有料老人ホーム、君岡鉄工宇都宮工場、キノコハウス、SPACESPACE HOUSE、ふたつの斜面、上島町のシェアハウスなど。

「PPP TABLE」 野老朝雄



PPP [PIECING PIECES PATTERN] は20年以上制作・模索している紋様作品です。Pには他にも、PROJECT (計画) PROLIFERATION (増殖) PROPAGATION (伝播) などの意味も込めていきたいと思っています。組み合わせで繋がっていくことが可能なテーブルです。

野老朝雄 | 1969年、東京生まれ。幼少時より建築を学び、江頭慎に師事。2001年9月11日より「つなげること」をテーマに紋様の制作を始め、美術・建築・デザインなど、分野の境界を跨ぐ活動を続ける。単純な幾何学原理に基づいた定規やコンパスで再現可能な紋と紋様の制作や、同様の原理を応用した立体物の設計 / 制作も行なっている。主な作品に東京2020オリンピック・パラリンピックエンブレム、大名古屋ビルヂング下層部ガラスパターン、TOKOLO PATTERN MAGNETなど。

「遊ぶテーブル」 西原尚

機能に押し込められているのは人間だけではなく、テーブルも同じでしょう。少しだけ枠を外してみると、ズレが生じてくるかもしれません。机上が世の中となり、空論が具体となり、役立つ物が役立つ物になつたりします。ズレやひび割れが徐々に大きく広がり、頭の中やこころの中と思っている空間が世間と変わらないという状態です。このテーブルは、そんなズレやひび割れの始まりの部分であるとすれば、ぜひ、テーブルとして使って頂き、遊んでください。



西原尚 | アーティスト・実践者として、サウンドアートやパフォーマンスなど「音」にまつわる表現活動を行う。音を作り出すために身体と物と空間が必要で、それらとどのように付き合うのか、そして発展させられるのか、関心を寄せている。知らない人と会い、知らない文化や習慣に触れるために、国内外で展示やパフォーマンスを展開している。最近では2023年9月アルメニアにて「CYFEST」に参加。

「Land boat」 下寺孝典 (TAIYA)



横浜は日本の貿易の中心地として栄え、人とモノやコトが交わる港町として発展してきた。かつて海だったみなとみらいの場所も陸地化し、発展を遂げて今に至るが、高度経済成長期から横浜港は造船やコンテナ物流など、モノの移動が中心となった。Land boatは、陸の上(Land)に船(boat)が停留することで新たな「港」をつくり、人とモノやコトが交わる「巷」を生み出したい。

下寺孝典 (TAIYA) | 「屋台」を専門に「TAIYA (タイヤ)」という屋号のもと、屋台のリサーチから設計、デザイン、制作を行っている。また、アジア各国の「屋台の生態系」を調査し、都市空間で自作の屋台を引きながら研究と実践も行っている。人が集まることで生まれる巷(ちまた)の復権を目論んでいる。

「エンダイ」 ワークステーション + 武蔵野美術大学建築学科高橋スタジオ



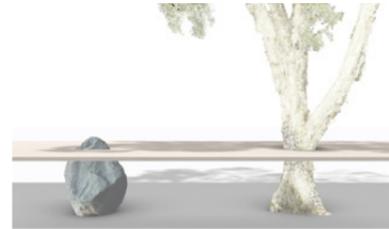
椅子にもなりテーブルにもなる、おりたたみ式の縁台です。たたむとコンパクトな小屋の形の箱になり、開くと縁台が展開図のように現れます。キャスター付きなので屋台のように移動しやすいデザインです。ミラーが張られた面には周辺の景色や人々が映り込みます。ここでちょっと一服、お弁当を食べたり、スマホをみたり、お喋りしたりする日常に溶け込む。その昔、街道にあった茶店のような、ほっとできる場所をつくりたい。

高橋晶子 + 高橋寛 / ワークステーション | 「高知県立坂本龍馬記念館」「仲町台地区センター」「野毛山動物園ふれあいコーナー」「京浜急行高架下新スタジオ」などパブリックな建築を多く手がけています。

武蔵野美術大学建築学科高橋スタジオは、黄金町バザール(2010)、象の鼻パーク 10 周年記念展(2019)、都市デザイン横浜展(2021)などに出演・参加しています。

技術アドバイザー兼制作チーフ: 木村幸伸 (同学科助手)

「plateau」 甲斐貴大 / studio arche

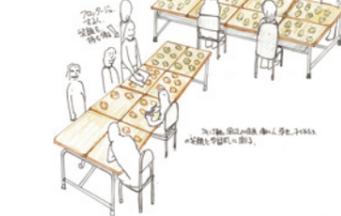


都市を歩きながら、そこに、ある高さの水平面を想像してみる。すると、水平面は樹木や電柱と交差する。この水平面と交差するすべてのモノを、この水平面を支える脚として考えられないだろうか。この水平面の高さが40cmだとベンチに、70cmだとテーブルに、3mだと屋根になるかもしれない。都市に水平面を挿入することについて考える。

甲斐貴大 | 1993年宮崎県生まれ。2017年東京藝術大学卒業。木材を主材とした作品を制作しながら、在学中の2016年、設計から制作、施工までを一貫して管理するアトリエとして studio arche 設立。東京都南品川に工房を構え、カトラリーから家具、インスタレーション、建築に至るまで、領域とスケールを横断した制作を行う。主な作品に「as it is」「mistletoe」「unclouded grobes」など。

公募作家

「机は昼にテーブルになった - smile on the table」 磯崎道佳



このテーブルは学校にあった学習机を連結して作ってあります。学校の昼休みに机でテーブルを作った様に、机には様々な地域の人々の笑顔と横浜(キング軸)の周辺に住む人、働く人、学ぶ人の笑顔が彫ってあります。鉛筆でこすり写し取ると笑顔を持ち帰れることができます。パンデミック以降、久しぶりに屋外でマスクを外し大きな笑顔でおしゃべりを楽しんでもらいたいと思っています。

磯崎道佳 | 現在北海道ニセコ町在住。「食糧危機は必ず来る」と想い、格差、紛争、気候変動が進んだ先にあるアート+生活の新しい形を模索している。主な活動、MoMA PS1インターナショナル・スタジオ・プログラムに参加(2001)、自生の果物を使った自家製天然酵母パン・プロジェクト(2020~)、知らない者同士の手紙の交換を目的とした「パラシュートとマキオ」(2002~)、「ぞうきんぞうプロジェクト」(2004~)、「ドーム/DOMEプロジェクト」(2005~)、「笑う机」(2012~)など。

「臨港テーブルユニット」 矢内原充志 + 佐藤邦彦



海沿いの公園などで、緩やかに賑わいを作ることができるカウンターテーブル。円弧を描いたり、うねうねと波うったり、自由にレイアウトすることが可能です。

矢内原充志 + 佐藤邦彦 | 2004年に設立した企画デザイン会社、有限会社スタジオニプロール。関内を拠点に様々な企業や自治体と福祉・教育・文化・観光など広範囲にわたるブランディングやデザインコンサルティングを行っている。代表でファッションデザイナーの矢内原充志とシェアメンバーでもあり写真家・プロダクトデザイナーとして活動する佐藤邦彦による謎のユニット。たまに思いつきで話し合い、領域を超えて気まぐれにコラボレーションを続けている。

公募作家

「テーブルの下の世界」 多田正治アトリエ



夕暮れ時、母は忙しそうに食事の支度をしている。食卓の上には家族の人数分の食器を並び始めている。間もなく食事の時間。小学生に上がる前の私はテーブルの下にもぐりこんでいる。お気に入りの絵本を読んだり、ぬいぐるみ達ともう一つの食卓を囲んだり、おもちゃの鉄道や自動車でミニチュアの都市をつくっている。食卓の上と下では、1枚の天板を隔てて、まったく異なる時間と空間が広がっている。それと同質の時間・空間を再現してみようと思う。

「何をしているの?」母がテーブルクロスの裾をつまみあげ、遊びに夢中になっている私の顔を覗き込む。

多田正治 | 京都市生まれ。大阪大学大学院博士課程修了。坂本昭・設計工房 CASA を経て京都で多田正治アトリエを設立。京都と熊野を行き来しながら町家リノベーションを始めとし、地方創生プロジェクトなども手がける。近畿大学建築学部非常勤講師。

阿部彩音 | 大阪生まれ。大阪工業大学修士課程修了後、多田正治アトリエ入所。